

海南省における小・中学校の適正な学校規模の基本的な考え方

1 前提条件

「海南省における小・中学校の適正な学校規模の基本的な考え方」については、現行の法制度等に基づき一定の基準を定めたものであり、今後、法改正が行われるなど社会情勢が変化したときには改めて検討が必要である。

2 適正な学校規模

- ・国が定める標準規模を参考としつつも「**海南省の実情を踏まえた上で望ましいと考える学校規模**」で、学校規模の適正化に取り組む際に目指すべき規模

校種	適正規模	基本的な考え方
小学校	6～12 学級 (1 学年 1～2 学級)	・多様な考えに触れながら学ぶことを可能にするためには、学級の中で複数のグループやペアを構成することができる規模が望ましいと考える。
中学校	6 学級以上 (1 学年 2 学級以上)	・中学校でより幅広く多様な人間関係の中で様々な学びや自己変革の機会を作ることができる環境としてクラス替えができる規模が望ましい。ただし、免許外指導の解消など教員配置の観点においては、より大きな規模が望ましいと考える。

※ 1 学級当たりの児童生徒数は適正規模として設定しないが、保護者へのアンケートでは現状の学級編制基準である 35 人よりも少ない「21～30 人程度」が望ましいという意見が多く、その理由としては「一人ひとりにきめ細かな指導を行ってほしい」という保護者の願いがあると考えられることから、1 学級当たりの児童生徒数にかかわらずきめ細かな指導を行えるよう授業形態や指導方法の工夫に努めること。

3 学校規模の適正化について検討を始める基準

- ・「2 適正な学校規模」における基本的な考え方に基づいて考えたときに「**最低限必要と考える規模**」で、それを下回ることが見込まれる場合に検討を始める必要がある規模

校種	検討を始める基準	基本的な考え方
小学校	児童数が <u>5 人</u> を下回る学年が生じると見込まれるとき。 <u>ただし、複式学級が生じる見込みとなった段階で、学校の在り方について保護者や学校の意向を確認すること。</u>	・多様な考えに触れながら学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには少なくとも同学年に <u>5 人</u> 以上が必要と考える。 ・上記に関わらず、複式学級が生じる見込みとなった場合は、学校や保護者に不安が広がることが予想されるため、意見交換等の場が必要と考える。

中学校	1つの小学校区で構成される学校で、2学級を下回る学年が生じると見込まれるとき。 <u>ただし、複数の小学校区で構成される学校であっても、構成する小学校において複式学級が生じている場合は、当該小学校の在り方と合わせて検討すること。</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期における成長には人間関係の変化が1つのきっかけとなることから、小学校から中学校まで人間関係が固定された状態は解消する必要があると考える。 ・<u>より幅広く多様な人間関係の中で様々な学びの機会を作るためには、一定の学級規模が必要であるため、複数の小学校区で構成される学校であっても、構成する小学校が複式学級となっている場合は検討が必要と考える。</u>
-----	--	---

4 検討が必要な事項

(1) 小学校の「学校規模の適正化について検討を始める基準」

第3回審議会が出された「複式学級にもメリットがあり複式学級になると良くないというわけではないが、2～3人になると対話の中で学ぶ教育を行う上で多様な考えに触れられる環境を整えることが困難である」という意見を踏まえて、検討を始める基準（最低限必要と考える規模）として、「5人」という基準を設定したが、対話による学習が可能な人数として何人が適当か検討する必要がある。

(2) 中学校の「学校規模の適正化について検討を始める基準」

第3回審議会が出された「1小学校・1中学校で9年間クラス替えができない状態は課題がある」という意見を受け、検討を始める基準（最低限必要と考える規模）として、「1つの小学校区で構成される学校」に限定した基準を設定したが、複数の小学校区で構成される学校については少ない人数でも1学年1学級の状態（下の参考例におけるケース③の状態）を容認するかどうかが検討する必要がある。

【参考例】小学校の検討基準を「5人未満」と設定した場合

ケース①	<table border="1"> <tr><td>A小学校</td></tr> <tr><td>30人</td></tr> </table>	A小学校	30人	➔	<table border="1"> <tr><td>C中学校</td></tr> <tr><td>30人</td></tr> </table>	C中学校	30人	<table border="1"> <tr><td>A小学校…検討対象外</td></tr> <tr><td>C中学校…検討対象（1小1中で1学級）</td></tr> </table>	A小学校…検討対象外	C中学校…検討対象（1小1中で1学級）				
A小学校														
30人														
C中学校														
30人														
A小学校…検討対象外														
C中学校…検討対象（1小1中で1学級）														
ケース②	<table border="1"> <tr><td>A小学校</td></tr> <tr><td>30人</td></tr> <tr><td>B小学校</td></tr> <tr><td>4人</td></tr> </table>	A小学校	30人	B小学校	4人	➔	<table border="1"> <tr><td>C中学校</td></tr> <tr><td>34人</td></tr> </table>	C中学校	34人	<table border="1"> <tr><td>A小学校…検討対象外</td></tr> <tr><td>B小学校…検討対象（5人未満）</td></tr> <tr><td>C中学校…検討対象外*</td></tr> <tr><td>※小学校が統合されると中学校も検討対象となるため合わせて検討する必要がある</td></tr> </table>	A小学校…検討対象外	B小学校…検討対象（5人未満）	C中学校…検討対象外*	※小学校が統合されると中学校も検討対象となるため合わせて検討する必要がある
A小学校														
30人														
B小学校														
4人														
C中学校														
34人														
A小学校…検討対象外														
B小学校…検討対象（5人未満）														
C中学校…検討対象外*														
※小学校が統合されると中学校も検討対象となるため合わせて検討する必要がある														
ケース③	<table border="1"> <tr><td>A小学校</td></tr> <tr><td>5人</td></tr> <tr><td>B小学校</td></tr> <tr><td>5人</td></tr> </table>	A小学校	5人	B小学校	5人	➔	<table border="1"> <tr><td>C中学校</td></tr> <tr><td>10人</td></tr> </table>	C中学校	10人	<table border="1"> <tr><td>A小学校…検討対象外</td></tr> <tr><td>B小学校…検討対象外</td></tr> <tr><td>C中学校…検討対象外</td></tr> </table>	A小学校…検討対象外	B小学校…検討対象外	C中学校…検討対象外	
A小学校														
5人														
B小学校														
5人														
C中学校														
10人														
A小学校…検討対象外														
B小学校…検討対象外														
C中学校…検討対象外														